

サンゴ礁生態系
保全行動計画
2016-2020
中間評価会議



平成30年12月15日
沖縄県八重山合同庁舎 大会議室

主催：環境省、石垣市
共催：沖縄県
協力：WWF-J

行動計画とは

- 日本のサンゴ礁を守るための具体的な行動を示すもの
- 平成28年3月策定

→地域社会と結びついた
サンゴ礁生態系を保全する
基盤を構築したい



特に取り組むこと

- 陸から海への影響を減らす
(赤土、栄養塩の流出対策)
- サンゴにやさしい観光
(持続可能なツーリズム)
- 暮らしとのつながり再発見
(地域の暮らしとのつながり再構築)



① 陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進

- 台風大雨や労働力不足により赤土流出防止対策が進まない、農家への対策手法の普及、整備対策とソフト対策の組合せ、栄養塩流出防止のための污水適正処理等が課題

【2020年度における目指すべき姿】

- 関係機関の連携、協力により、**数力所の地域において陸域に由来する負荷の軽減対策を試行**し、そこから得られる教訓を他地域でも応用可能なように整理・提供する



沖縄県衛生環境研究所提供

沖縄県衛生環境研究所提供

沖縄県環境部環境保全課提供

② サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進

- 観光利用増加、過剰利用や不適切な利用による踏みつけ等の悪影響



【2020年度における目指すべき姿】

- サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムのモデル事例が構築され、サンゴ礁生態系の適切な活用方法や保全などに係るノウハウ等の共有体制が構築される
- 海外観光客増加に向け、多言語対応の保全への理解を深める効果的な普及啓発ツールが開発・提供される

③ 地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築

- サンゴ礁とのつながりで育まれた地域の伝統文化の継承、高緯度サンゴ群集域における地域社会の対応



【2020年度における目指すべき姿】

- サンゴ礁生態系がもたらす恵みが地域毎に整理され、理解され、若しくは適切に活用されることを通じて、地域主体のサンゴ礁生態系の保全が促進される
- 高緯度サンゴ群集域においては、サンゴ礁の恵みの活用方法などに関する情報の共有が促進される



(出典：石垣島沿岸レジャー安全協議会「あんなだったよ〜 石垣島」2015 イラスト＝笠原利香)

2020年度における目指すべき姿



- 実施状況の情報共有等を行うワークショップを年1回実施
- 2018年度中間評価、2020年度終了時評価を実施し、計画見直し

中間評価

- 今年度（2018年度）は5か年計画（2016-2020）の中間年
- 「2020年度における目指すべき姿」の達成状況を評価
- 今後の方向性を検討

